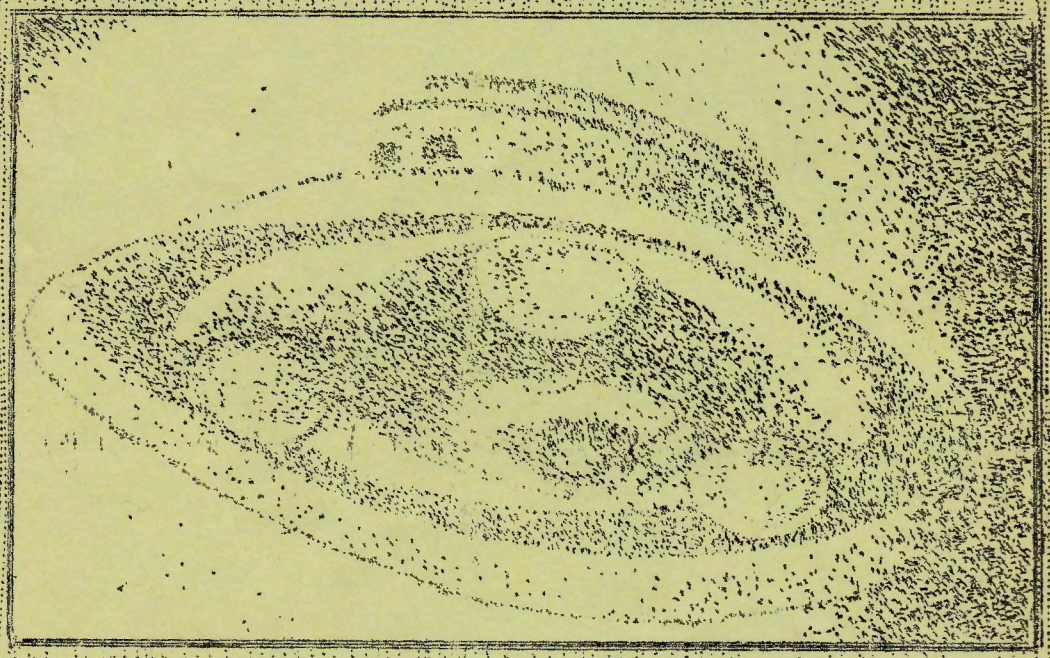
PRS
ユニバーサルメッセージ
3



ユニバーサルメッセージ8

PRSユニバーサルメッセージ8号 目次

宇宙 〈山口 緑〉 …… 1
UFO研究は人間研究〈久保田八郎〉 …… 2
想念観察 …… 10
UFOは認められつつある〈高野和子〉 …… 12
自然を観察すること …… 13
我々と教育と未来〈徳丸由紀夫〉 …… 14
質疑応答 …… 16
日本人は土星人の子孫である!? …… 17
土星旅行記〈ジョージ・アダムスキー〉 …… 19
山大PRSのみなさんへ〈斉藤秀彦〉 …… 23
書籍紹介・新メンバー紹介 …… 24
編集後記 …… 25

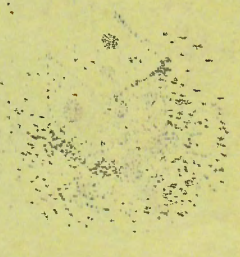
PRS

PRS(Philosophic Research for Space)は研究対象を広大かつ無限なる宇宙とし、空間的宇宙に眼を馳せることは勿論、この秩序正しい宇宙を生かしめている法則、英知、パワーを認識し、さらに万物を観察することにより、生命を探究し、人間の生き方、目的をとらえようとするものです。人間の真の生き方を究明しつつ、自己を通じ、この世の中を平和にしようとする建設的グループです。

PRSはジョージ・アダムスキーの説く宇宙哲学を基礎にすると共に地球人類のために飛来していると言われる高度に進化したスペース・ブラザーズと共に、よりよき全創造物のために働こうとするものです。

表紙-〈金星の空飛び円盤〉

1952年12月13日午前9時10分、カリフォルニア州パロマーガーデンズで、G.アダムスキーが6インチ反射望遠鏡によって撮映した金星の円盤。底部レンズ、3脚の着陸用ギヤー、主動器械を収容したカバーなどが見られる。



宇宙――。

果てしなくどこまでも遠く、広く、それは尽きることを知らない。

スズ虫の鳴く季節、ひとり屋根に攀じ登って澄み渡る夜空を見渡す。きらきら輝く星くず、宇宙という天井に無数の、とどまることを知らぬシャンデリアが飾る。

これら数限りなき星々は一体何をわれわれに語りかけようとするのか。

時折、静寂の中に、一筋の光が無言のまま、ふと現われては、静かに消えてゆく。流れ星だ！

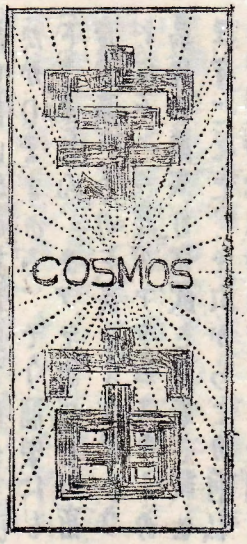
あたかもこれら宇宙に点在する星々がわれわれの汚った心を浄化してくれるように……。この宇宙の広大さと清浄さに触れるとき、われわれの心がいかに偏狭であるかに気づくのである。

われわれの住み家――地球。

大宇宙の中のほんのちっぽけな一惑星でしかない。地球ごとき星はほかにいくらだってある。地球こそが唯一なる星というこは地球住人の寝言にすぎないのだ。地球はほんの一点にすぎないのだ。

しかし逆に言えばこの一点が宇宙を構成する重大な一つの部品でもあるのだ。この地球も大宇宙の整然たる秩序の下で呼吸している。ここにも宇宙の英知なる力が潜んでいる。

なのにどうして地球住人はこの美しき地球を汚し、破壊しようなどと考えるのだろうか。なぜ自分ひとりの私欲だけを求め、他の者を犠牲にしようと考えるのか。なぜ自分で自分の首を絞めようというバカなマネをするのか！



この美しき地球をこれ以上いじめることはやめようではないか。

すでにわれわれの住む太陽系は除々に崩壊しつつあるという。われわれの友スペース・ピープルは宇宙空間の精密な観察によってそれを確認し、そのため彼らは別な太陽系内に新たに生息可能な惑星を発見し、すでに多くの、地球を除く十一の惑星のプラザーズが移動を開始しているというのだ！

もうこうなったら無い地球でヤレあいつが気にいらないとかヤレ金が欲しいなどというている場合ではない。一刻も早く国や人種を超えて地球住人が結束し、宇宙船を建造し、宇宙へ飛び出さねばならない。

もし地球住人が盲目的に目先のことだけのことで核戦争などというバカげたことをしでかすならば、もはや絶望的である。プラザーズはこのことを警戒し、必死になってくい止めようとしている。地球が崩壊すれば、太陽系全体が危くなるからだ。

目覚めようではないか！宇宙は学ぶべき最良の館である。もっともっと目を宇宙へと向けよう！そしてプラザーズと共に、手を取り合って、学習し、生きよう！ではないか！

UFO研究は人間研究

……昨年十二月に行なわれた日本GAP総会における録音テープから……

久保田八郎……

ルウ・チンシュタークに会う

本日はせっかくの休日をはるばる遠方よりご来場頂きまして、有難とうございました。

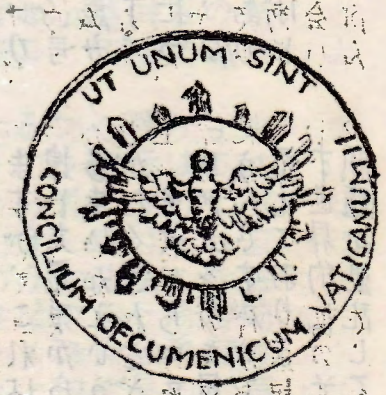
今私の方は機関誌の「ゴルゴンズレター」の60号を製作中でありまして、これは原稿が印刷屋さんの方にもう回してあるんですが、年末のことでなかなか忙しいらしくてはかどらないようでしてい12月中に出そうというもりでおりましたんですが、これがまたわからなくなってまいりました。あるいは一月になるかもしれませんですが、マア悪しからず御了承頂きたいと思います。

今度は60号でして充実したものにしようと思ってて増ページなども考えましたが一回につきたいへんな印刷費に如方円かかりますので、そう簡単にもできません。まアその代わり密度の高いものを載せようというわけでして、今度のアダムスキーの最後の講演の完訳を連載で載せますことと、それからこの前私ヨーロッパへ参りまして各国をあちこち歩きまして、九月二十四日へ一九七一年この日ですね、スイスのジュネーブでルウ・チンシュタークというアダムスキー派のヨーロッパにおける活動家として大変活動されました七十歳の女性がいらっしゃるんですが、昔から私と文通しておりましたんですが会うのは初めてでして、ジュネーブでお会いしました。そして席、まアずいぶん楽しく話しながら過ごしまして、その時アダムスキー問題についてこまごまと詳しく聞きました。特にバチカン宮殿事件ですねエ、アダムスキーがバチカン宮殿に行って、そして入口のところで、別な入口で、そこから迎えに来た不思議な人物を見て、「ああ、あの人だ！」と叫んで、そしてそれに連れられて中へ入っていった。そしてヨハネ二十三世に会ってスペースブラザーズから預かっていたものを、これはメッセージ、これを渡してそして法王が大変喜こばれてお礼としてお金の、黄金のメダルを与えられたという事件があるわけですが、その入口まで通訳としてついていったのがあのルウ・チンシュタークでして、彼女もその不思

議な人物を、スロのところに出て来た人を見たそうです。

不思議な人物はスペース・ブラザーだった！

これは従来は黒い僧衣を着ていたと伝えられていましたが、本当はそうではなくてただ黒い服を着ていただけだということでした。これがやはりバチカン宮殿の中をひそかに活躍しているブラザーへ宇宙人しなんだそうです。そのブラザーがアダムスキーを手引きをして中にえれたわけですねェ。そしてそれを証明するものとしてこれとその事件がどこまで本当なのか。アダムスキーはバチカン宮殿の中へ、横の、まあ一般観客のえらない横のスロからスってそのまま裏の方へ逃げてしまったんじゃないのかと。そしてそのローマ法王のメダルはどっかのオモチャ屋で買って来たんじゃないのかというふうにまァ考えられないこともないんですが、それを証明するかのようにですね、あくる日のイタリアの新聞にローマ法王のことが書きされて、



• ヨハネ23世がアダムスキーに与えたという黄金のメダル。まだ銀行で使用されていない万国コインだったといわれる。上が表，下は裏

「昨日訪問でローマ法王を訪れ、そして大変ローマ法王は喜ばれて顔の色がバラ色であった」ということを新聞が伝えたそうですが、高ぶのことはアダムスキーがバチカン宮殿から出て来てですね、再びルウ・チンシュタークに会った時、九年のように喜んでいてローマ法王は非常に喜ばれて顔の色がバラ色であったということをアダムスキーが言ったそうですが、ちょうど同じことがあくる日の新聞に出たということです。ですから新聞に出た記事によって確かにアダムスキーがもう一人の不思議な人物に連れられて法王に会いに行ったということが間違いないということになるんだそうです。

ルウは五か国語を話す才女

また、その他いろいろおもしろい話を聞きまして、そしてだいぶ長時間ルウ・チンシュタークと過ごしまして、このルウ・チンシュターク女史は今はもうちょっと引退した形でアダムスキー氏から離れたといいますか、退いたといいますか、直接表に出てやっておりませんが、UFO研究はまだずっと続けておりまして世界中の膨大な資料・写真などを持っているんだそうです。

これはず何年か前に、私がヘ[illegible]先生に御紹介しましたあと、寺尾先生へ実際大学一の[illegible]先生がやはりヨーロッパ

いわっしゃいまして[illegible]会い
になりましたので、その時もまた
いろいろなお話を私うけたまわ
って、このまして、大変物語が
ね、非常に知的な五か国語を自
由に話す婦人だというふうに私
思っする前に[illegible]先生からお聞
きしましたものですから、私は
どっちかと言いますと背の高い
スラッとした、もう貴婦人のよ

久保田氏とルウ・チンシュターク（ジュネーブにて）

うな、何か[illegible]な、知的な何か
輝きのあるようなすばらしい婦
人だろうと思ってそういうイ
メージをもって行きましたら全
然イメージが違っておりました。
もうかなり背の低い、そこらの
お店のおばさんというような
笑いいと大変陽気な大きな声で話
す人です。また陽気な大きな声
で笑うんですね。高らかに！・
そしてマア、私と話し合う時はド
イツ訛りの英語で話したんです
が、だいたいドイツ語がーズイ
スのヴァージェルは低ドイツ語
の方言を母国語としているそう
でして、それ以外にフランス語、
それからイタリア語、スペイン
語が自由自在に話せるんだそう
です。大変な人ですねェ。

そういうことで私、九月の二
十七日にこちらに帰ってまいり
まして、その今見記を今度10号
に載せますから、ひとつお読み
になって頂ければと思います。
ついでに語学のことなんかにつ
きまして、私感じたことを、い
ろいろ余計なことを書いており
ますので、多少参考になればと
思います。

UFO問題は混乱の極に達している

それから今アダムスキー問題ですね、に限らずUFO問題、これは私、会社で「UFOと宇宙」という雑誌を出しておりますが、すいぶんいろんな情報、または資料などを手に入れまして研究するんですが、もう混乱の極に達しておりまして、どこまで何が本当なのか、ウソなのかさっぱりわからないというような状態になっております。それから宇宙人と会ったというような話も、モウゼラにございまして、中には偽作もあるんでしょうが、中には本当に出合ったと思われる事件もありますが、これはもう全然別な、遠い太陽系から来たのではあるまいかというようなケースがたくさんございます。

それからニセ宇宙人もかなり地上を歩き回っていると思うんですが、マア、とにかく混乱しておりまして今後ますます世界的に、そういうUFO問題が混乱してくると思いま

いますが、これはひとつの、私、兆しだろうと見ているんです。

第三次大戦は必ず起こる!?

何の兆しかといいますと、この世界はこっちゃ、これから非常によくない方向に進みこそすれ、よい方向に進むことはまずあるまい。エドガー・ケーシー（今世紀の偉大なる予言者。眠れる予言者）と称され、適中率が百パーセントに近いといわれる）が言っておりますような、ああいう一夜にしてヨーロッパが沈没するとか、日本列島が沈むというようなことがどうかこれはまァ、わかりませんが、少なくてもそういうことがなくてもですねェ、異常気象というものが次第に激しくなってくると…これは一説によれば原爆の影響だといわれていますけれどもーよくわかりませんがーとにかく異常気象が世界的に激しくなってくる。そうしますと、その結果として必ず食糧が必ずとれなくー不足してきます。食糧が不足すると、人間これくらいもう動物本能、動物的感情を出すことはないんでして、必ず他国の食糧を奪うための戦争が起こってくる。そうしますと第三次大戦というものはもう必ず起こるんであって、まず避けられないだろう。第三次大戦が起これば従来の火薬の爆弾などでは話にならないんで、核爆弾をドンドン落とすだろう。そうしますともう、世界中がおそらくそのために全滅するであろう。ケーシーが言っているように大陸や土地が沈没しなくとも、それがそのままあってもですねェ、おそらく世界中がもう荒廃の極に達するであろうというようなことが、大体考えられると思います。必ずそうなると私が予言し、また断言するわけではございませんですが、私の個人的ないろいろな計算からしまして、これはもう必ずそうなるのではあるまいかという気がするわけですね。

そういうような、非常に破滅的なことが今後、まァすぐにはないでしょうけれども起こるためのひとつの兆しとして、UFO問題は混乱の極に達している。またこれを混乱させているものがあるというふうに考えられます。

UFO研究は人間研究

まァ、しかし何が起ころうとですねェ、ジダバタ騒いでも仕様がございませんので、もう私しどもは心を静めて、そして自分の最高の生き方をしようということしかございませんので、やっぱりつまるところは哲学的な考え方、宇宙哲学的な考え方、それから超能力の開発というようなことによって、少しでも自分のよき運命を歩むようにするほかに仕方があるまいということになると思いますので、結局UFO問題は「UFO研究は人間研究である」ということが昔から私の持論でございますが、ますますその観を深くしている次第でございます。

UFOのある問題を、やれインチキだ、本物だといって騒いでいるような時代はもう過ぎてしまったのでありまして、そんな円盤写真などを見て、やれ本物だ、ニセ物だといろいろ論議しているのは、

もう非常に次元の低いことであって、そんなところじゃないんだということを[illegible]いたします。

アダムスキー、世界的に認められるか？

それからアダムスキー問題につきましても、もう長年やってまいりましたが正直なところ去年アメリカ中へといっても全部じゃないですが一東部、西部あたりを歩きまして、アダムスキー問題はほとんど知られておりません。これはなぜかと申しますと、アダムスキーの本が出ていないからですねえ。もう出版社が出さなくなったんです。なぜ出さなくなったかといいますと、これは簡単なことで、売れないんですね。なぜ売れないかーもう古い話だからですねェ。ああいう古い話というというものはいくら内容がすばらしくても、そう売れるもんじゃないんです。これは私も多少出版屋のマネごとをやっておりますからわかっていますが、なるべく新しい内容のものを出さないと本というものは

売れるもんじゃないという原則がございまして、そのためアメリカの出版社でも出さなくなりました。

ですから本を読まない人は当然アダムスキー問題というのを知らないというのはあたりまえのことでして、だからといってアダムスキーがアメリカで、全然問題にされていないということにはならないと思うんですが、要するに、とにかくアダムスキー問題はこれからずっとかなり長い間ーになるかどうか知りませんがー一般人には次第に忘れ去られる方向に行くだろう。そうして何か今度世界的に大変なことが起こるーマア起こるでしょうがー起こるとすればその直前ごろから、かせんアダムスキーがいよいよ本当に世界的に認められるようになる時が来るだろう。それはすなわち公然とスペース・プラザーズが宇宙般に乗って地球上に姿を現わすからであろうというふうに考えられるんです。

自己の魂を高めよう！

まア、アダムスキ自身に関しましてもいろいろ混乱するような要素がございまして、今度まア、いろいろGAP内部の方々、会員の方々もいろいろ迷われる時が来ようと思いますが、これはまア仕様のないことでございまして、そのために会員がずうっと減ってきてしまいには十人なり五人くらいしかならないというーまア、十人なり五人ぐらいの状態になるかもしれませんが、しかし、私はこのGAP活動を決してやめませんー。たとえ五人になり、最後に私ひとりになっても続けてゆこうと考えております。まあ、そういうことはないと思います。

そしてアダムスキーの紹介活動、私が遺志からずっとやってきました紹介活動の役割はだいたいもう私としては終わったであろう。だからといってGAPというのをやめるというんじゃない。これは続けますが、アダムスキーの紹介活動そのものはもう十・九割はもう果たしたと思いまして、今後は、今後は個人的な霊性を高める、あるいは魂を高める、あるいは超能力を開発するというような、そうい

う精神的な推進活動の方をもっと強くやっていきたいと思います。今までは ちょっと趣味の段階を出ない、あるいは文人主義的な域を出なかったというような面もあって、大変申し訳なかったんですが、これからはそれを本格的にやろうというふうに考えまして、それでその一環として本日亀田先生（亀田一男氏、透視術者として名高い超能力者）に御来場願いまして、超能力開発のお話をうけたまわった次第です。

まア、そういうことでございますので、なにとつ今度とも よろしく御支援のほどをお願い申し上げまして、いちおうこの話を終らせて頂きます。

質疑応答

質　想念観察について詳しく説明して下さい。

答　これはですねェ、想念観察手帖というものを前に作って、そしてその手帖の中が、左ページが宇宙的な想念のページ、右ページが非宇宙的ですねェ、こういうふうに分けまして、さらにまた詳かく項目を分けて、「親切」さ、それに対応して非宇宙的な方は「不親切」とか、あるいは「愛の心」とか、「憎しみ」とか「憎悪」と対の「憎しみ」とか、またそれの反対の「憎悪」とか、こう何項目かに分けてあるんです。そしてそれによってまア、自分の想念が一日起こる想念を観察しまして、どんどん印をしてゆくわけですね。これはもうありませんので、お分けするほどはないんですが、私の方へ手紙で御連絡頂ければ一・二冊まだ手元にありますから、その一ページでも切り取ってお送りしてもよろしいですが、だいたいにおきまして人間の宇宙的想念と非宇宙的想念を二つに分けて、

一月日	宇宙的（左ページ）			利己的（右ページ）		
宇宙の創造主との一体、自分と全生命との宇宙的な一体性を思い出せるような想念。	他人に対する積極的な親切・愛。奉仕感。	的な活動	平静な楽しい感情 仕事に対する積極感、感謝、の心。現象の因果関係を考える。	自分と全生命との宇宙的な一体性を忘れ出さない孤立感。宇宙の法則に対する疑惑。	他人に対する憎しみ、非難、ジェット・怒り・ヒステリー	落ちつかないイライラした感情。不安・恐怖・仕事に対する怠惰感。利己的物欲。過度に官能的刺激を求める不満。現象の因果関係を考えない

かつて日本CAPが製作した想念観察手帖

ぼっきりと記せるようになっています。

この方法はですねェ、実際はあのいかなる宗教団体、あるいは修養団体もやっていないんでおねェ。何でもないようなことですが、これは実際は、人間を向上させる最高のすばらしい方法だろうと思います。

ですが、なかなか自分の想念をこれを観察してこれを記録するということは、たい

へんなことですから、中にはそんなことができるはずがないとか、想念観察をやると気ちがいになると言う人もありますが、そういうことはないですねェ。ただ大変な努力と忍耐力を要するということは確かです。

想念観察といいましても想念感情の観察ですから、怒りの感情が起これば、当然それは自分がすぐに観察していて、たいへんな怒りの心を起こしたと、さらにそれを測る尺度のようなものがあって、この怒りは今何度ぐらいに達しているとわかればいちばんいいんですが、ただそういうふうなメーターのようなものが発明されると、これまたいちばんいいんですけど、そこまでまだありませんから、自分で適当にきょうの怒りは大変なものであったというふうに記して、そしてこれじゃいけない、この怒りを静めてむしろ逆に宇宙的な想念を起こそうというふうに、意識的に内部に宿る〝宇宙の意識〟ですねェ。コズミック・コンシャスネス〟、これをフィーリングでもって感じるようにしようというのが想念観察でして、ただ観察して記録すればそれでいいというわけじゃないんですねェ。

それにつきまして今度の60号の巻頭言に「宇宙の意識」つまり「コズミック・コンシャスネス」という題で、私ちょっと余計なことを書きますが、人間だれしもーアダムスキーはいやというほど言っていますが―自身の肉体を生かしているのは、宇宙の創造主（クリエーター）のそのパワー、あるいはインテリジャス、英知ですねェ、あるいはコンシャスネス（意識）そういうなものが中に宿っているんだと……それはそうでしょうねェ。これだけの精密な身体をほかの外部の第三者が創りあげたということは不思議なことですが、そこには明らかに何かのすごい英知があると、知性があるということがわかります。頭が良いとか悪いとかの知性じゃなくて、もう人体そのものを物凄く精密に創り上げた知性―これをさらに考えてみますと、われわれは自分のからだを維持している70年・80年なりずっと維持してきて創りあげている何らかのパワーがあるハズなんで、それを自分が意識しているかー意識しているというのは表面が心へ自覚している限り、私たちにとってこれくらい大きな心強い支持者はないのであって、他人というものは案外あてにならないですねェ、人は信用できない、人は信用できないと言われますが、他人というものはあてにならない、自分にとって完全に信用のできる、全く完全に安心ができてすがることができるのは、内部に宿る、全部の細胞をちゃんと生かしている、内部に宿る〝コズミック・コンシャスネス〟あるいは〝パワー〟そのことを自覚しようではありませんか！ということを、今度私が呼びかけるわけですが、この猛烈な、強烈な自覚をですねェ持って、そうして必ず実現するというイメージを描くならば、もう恐れるものは何もないはずです。必ず何かを、自分の描くイメージ・望ましいことは必ず実現しますし、それからおよそ自分を傷つけるような、あるいは自分を恐怖におとしいれるようなものはまず現われない。そういうものがあってもですねェ、自分は巧みに

それをいつのまにかのがれて、はずれていくようなコースを歩むであろうということが言えるんです。

この内部に宿るコスミック・コンシャスネス、これを意識することはもう四六時中意識していないとだめである。超能力を開発する場合でも、まずその自覚が土台になるのである。

そういうふうにしてですねェ、生きるならば、まず間違いのない生活がおくれるはずである。もう絶対的な自信ですねェ。これをお互いに持つことにしようではありませんかというふうに私は呼びかけたいわけなんです。

えー細かいことはまた、アダムスキーの「生命の科学」、「テレパシー」などをお読みになれば、おわかりになりますが、なかなか人間、読んだだけでは、ああ、これはいいなぁ」と思ったらあと思ったら、もう本をほうり出して普通のへ利己的な〕想念に変えてしまう—これじゃいけません。とにかく人間として普通の、死人のような生き方じゃなくて、イエスが言っておりますー「死者の棺をかつぐ死人」のような生き方（つまり エゴをむき出しにした利己的な生き方で、宇宙の意識に盲目であること）ではなくて、内部に宿る宇宙の、創造主の生命"といいますか、英雄"といいますか、そういうものを本当に自分の表面のマインドで、センスマインド（感官の心）で意識した生き方、これが本当のコスミック・マン—宇宙的な人間—だと思います。そういうふうな生き方をしようではありませんかというんですねェ。

まずこれは私がやらないでいくら偉そうなことをいったって何にもなりませんから、もうずっとこの前あたりから私がそういう強烈な衝動を起こして、そういうふうな方向へ自分をもっていこうとしているわけなんです。

まア、私のやろうとしていることがもし間違っていたならば、とんでもないことが起こるはずですが、そういうことが起こりませんので、むしろ何か良い方向に私がずっとこう歩んでいるのではあるまいかというような気がするわけですねェ。気がするじゃなくて、必ず私、そうなると思っているんです。

時間がまいりまして、どうもこれ以上ちょっと詳しく申し上げませんが、またそういうようなことで御質問がありましたら、私の自宅宛にですねェ、私の勤め先の会社宛に絶対によこされませんように、会社はもうGAPとは何の関係もありませんから、単なる営利企業体ですから、あそこへよこされませんようにして、私の自宅宛に郵便でよこされますならば、また御返事を暇の時をみて、御返事をさし上げます。

どうも長い間、ありがとうございました。

××××××××××××××××

久保田代表のあいさつは終わった。すばらしかった。物音しない静寂さの中に、代表の宇宙的な声がひびき渡った。

ほぼ、全メンバーが帰られた頃、私は泄田と共に、来の間の会話を代表ともつことができた。

「時間がなくて、今日は残念ながらお話ができない」

「機会があれば必ず、喜んで山形に行く」とやさしく答えられた。

さらに、例年のごとくUFOが現れた！！機は会場の真上を飛んだそうである。さらに、久保田代表の解説中、ずっとその後ろにアダムスキーが立っていたそうである！！泄田先生の透視によれば、

米国に――という傑出した大統領がいた。ある日忽然と世を去って行く。白昼夢の如きこの事件は世界を震撼さし、誰は巨大な悪霊に包まれて天空へ消えた。日月は流れて人々の記憶も薄れゆく。伝説は伝説を呼び起こし、歴史の里程標が増えては朽ち果てる――。

アダムスキーという宇宙哲学の指導者がいた。彼は大統領と親交があった。大統領は極秘裏にアダムスキーを最大のブレーンにしていた――。

人々は何も知らなかった。知ろうとしない大衆は盲目である。いや「死者の棺をかつぐ死人」である。そうだろう。地球は墓場なのだから――。

この墓場から脱出するにはどうすればよいか。答はただ一つ。マインド（心）を〻宇宙の意識と一体化させること。これしかない。他に全く方法はない。古くからの因襲・伝統・習慣等で汚染された肉体の細胞群が一大軍団をなしてマインドを侵略し、蹂躙し、食い尽くしている。今や人間のマインドは哀れな餌食となり、悪魔細胞軍団の檻に縛られて身動きできない状態にある。

しかし内部にひそむ宇宙のパワーは活動しており、その檻をはずせと囁きかけてくる。因襲と習慣という深海の水圧に喘ぐ小島にすぎない我々人間にも救いの道は開けている。意志力によって檻を打破できるのだ。

想念観察

―GAPニュースレター58号より―

↓宇宙的人間になる方法↓

習慣！　悪習慣！　習慣的想念！　これらを除去することこそ光明の第一歩であり、真の自由を見い出すための活路である。

どうすればよいか？

ここに素晴しい方法がある。自己の想念を観察し続けて、想念内容を次第に宇宙化させるのである。これを他人はやってくれない。あくまでも自分自身にかかっている。

習慣的想念（habit）に汚染されきっている人間の想念を宇宙的な方向に導くための基礎段階として、まず自己の想念を直視してその内容や傾向を知らねばならない。すぐに他人を憎悪したりひねくれたりするクセがあるか、人間は弱い存在で、金がなければどうしようもないと思い込んでいるか、肉体は単なる物質で、故障が起これば何はおいても医学の力を借りるべきだと考えているか、人生は儚ない夢の如きもので、死んでしまえば生命はそれきりだと信じているか、何をジタバタしても始まらず、生活費だけ稼いで食って寝ていればよいと諦めきっているか――。

長い因襲によって培われたこのような習慣想念を断固排除して、人間は万物のなかで最も創造主に近い存在で、永遠を生きるものであり、心身ともに完璧に形成されている！という宇宙的想念を持続させるには、非宇宙的想念がわき起こるたびにそれを打ち消して、積極的に宇宙的想念に切り替える必要がある。これが宇宙的フォーリングを持つための不可欠の要素であって、

そのためには毎日、終日、自己の想念を手帳に記し、一日の終わりにチェックした上で自省しなければならない。こういう事を全くやらないで人間のレベルが向上することはまずないだろう。

具体的に言えば小型手帳を用意して、見開きの左頁を宇宙的（利己的）想念の欄、右頁を非宇宙的想念の欄とし、終日わき起こる想念をこの二種類に大別してかたっぱしから記入してゆく。文章にして書くと時間を要するので、簡単な記号で記してもよい。とにかく記録をしないことには比較検討はできないから、記録は重要である。

「そんな事をして何になる？」と一笑に付す人は、すでに地球を取り巻く低次元の一大習慣想念帯を、至上唯一の〝世界〟と思い込み、それ以上の高度な次元を見る眼を持たないのであるか、仕方がない。また、想念観察をやれば狂人になると言う人もある。無理もない。すでに異常な世界に慣れていて、それを当然だと思い込んでいる人には、このような方法で異常な想念を正常にもどすことは苦痛至極だろう。

しかし、実行してみればわかるが、これこそあらゆる行法にまさる素晴らしい方法であり、しかも日常生活の場で実践できる最良の自己訓練法である。第一日常生活で実行不可能な特殊な行法は我々現代人には不要である。働きながら行える方法でなければならない。

かつて日本GAPは「想念観察手帳」を製作して会員に頒布したが、資金不足で中止し、以来絶版となった。しかしこれは自分で簡単に作れるのである。これこそ宇宙的人間になるための不可欠の方法であり、手垢で汚れた小型の手帳には聖者への道を歩む足跡が燦然と輝いているのである。この想念観察法はアダムスキーが「テレパシー」の四十頁と、「宇宙哲学」百二十一頁で解説しているので参照されたい。

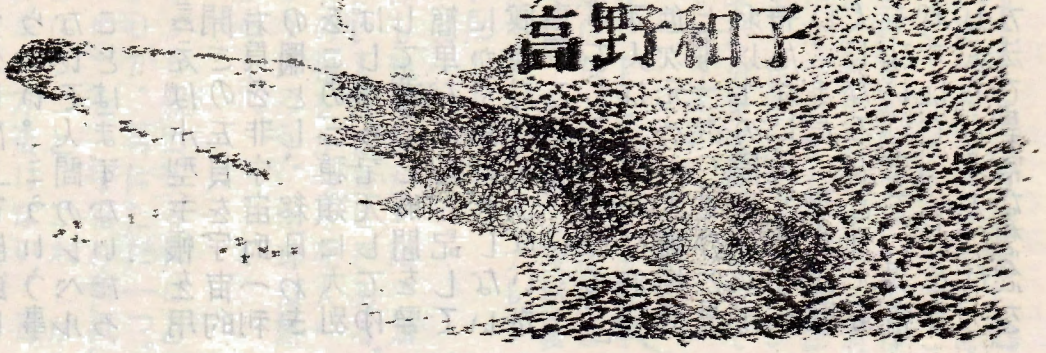
この地球という惑星は、だれかが何かをやると一方では必ず批判や悪口が起こってくる厄介な世界だが、自己の想念を観察し、感覚器官をコントロールして宇宙的フィーリングを起こそうとする試みは、どのように見ても〝善事〟でこそあれ、〝悪事〟ではない。したがって他人の批判を気にする必要はさらにないし、第一、気になるような想念が起これば、ただちにそれを記録して、宇宙的想念に切り替えねばならない。このようにして次第に創造パワーの王座に近づく人は人生において如何なる障害や困難事に出くわすこともないだろう。「偉そうぶって」いるが内心では何を考えているかわかったものではない」という地球人の通念に惑わされないためにも想念観察こそは最良の方法である。

思いきって実行しようではないか。

UFOは認められつつある

-UFO世界会議に寄せて-

高野和子



UFOの世界会議が開かれたことはご存じでしょう。朝日新聞4月21日付にも載っていますように、UFOについてもまじめにマスコミ関係でとり上げられるようになったわけです。ただそれが、一部まじめに取り組んでいる人々が餌となって、マスコミに話題を提供しているだけというのでは困るのですが！。

さて、世界会議について少々。

〈朝日新聞から〉

メキシコ、アカプルコにて4月18日から一週間のあいだ開催され、同会議では12か国から四百人の代表が参加し、UFOの存在を前提にどのようにその存在を科学的に証明するか。もしUFOに遭遇したらどう対処するかなどのテーマを中心に、前向きな討論が行なわれたそうです。

各国代表による講演テーマの主なものは、

①UFOの存在に対する懐疑主義。

②UFOの存在を示す証拠。

③UFOから発射されるテレパシーの解説。

④米政府によるUFOの存在を証明する証拠書類の隠匿。

第一日目の会議では様々なUFOの出現実例が披露されたが、目撃者の多くが高熱ややけどを負っているため、遭遇の際にはカメラの撮映はおろか、近づかないことというのがほぼ一致した科学者の意見。

出席者には、バレー・ソルボン又大学教授、ヒネク米空軍UFO調査顧問、ペテルセン・デンマーク空軍司令官らの顔ぶれにまじって、ゲーリー、グレナダ首相も出席した。彼は国連の会議でもUFOの調査委員会設置を提案し、一躍有名になったが、七十九年の第2回UFO世界会議を同国で行なうよう参加国代表によびかけている。

このように最近、公の場をもって皆が真険な方向でUFOについて討論を始めたということは、大変な進歩ではないかと思うのです。

米航空宇宙局をはもうだいぶ昔からこういうたぐいのことは話されていたときますが、だ一つの国が考えたとか考えないとかという小さなことにとら

われず、地球自体が一つの国となれるような日が近々来ることを、私は切望します。なぜならその日はきっと平和と呼べる日だと考えるからです。何だか宗教的で哲学的になりましたが、何の関係もないのです。

私は今までこの同好会において、何一つできなかったことをおわびしなければなりません。それと同時に今まで以上に皆さんとの交流を深めてゆくことを忘れてはいけないと思っています。

今回の私の雑記がユニメスに載ることは、実際大変恥ずかしいことですが、私の一年を通しての一年もなかったわけですが）の総括として――。

自然を観察すること

金星では子供が生まれると両親がその子とテレパシーでコミュニケートしますが、これは肉体は新しくても意識は太古から続いてきているからです。意識は多くの異なる肉体に住み続けています。しかし新生児の肉体はまだマインドを持っていませんから見たり話したりはできませんが、フィーリングは持っています。これと同じフィーリングがこの花を作り上げ、雲や雨などを作るわけです。両親は子供とテレパシーで会話を交わし、どこから生まれてきたか、前生は何だったのか、この生涯でいかなる運命を持っているか、などを発見します。そこで子供が生長して五、六歳になると、地球人の五十歳の人よりも利口になります。なぜかといえば、地球人は五十歳になってもまだ盲目の状態で、自分がなぜこの世に生まれたのか、人生の目的は何なのかを知らないんです

から。金星では五、六歳で知っているんです。彼らがいかに進歩しているかがわかるでしょう。彼らが神秘の書物を読むから進歩するのではなく、自分自身や生命を研究するからなんです。特別なものは何もないんです。いわば自然を観察するだけのことです。

この小さな娘のエリシアですが、数カ月前に彼女に尋ねたことがあるんです。『おまえは前世のことを憶えているか？』と。憶えている、という言うんです。それでおまえは何生だったの？と聞くと、『前は男の子だったわ』と答えるんですね。それでどこの星から来たか憶えているか？と尋ねると、憶えていると答えて、その星の名を言いました。もちろん私たち夫婦（ドン・ステックリングとイングリッド）は子供の答を理解しています。

――GAPニュースレター 58号より

我々と教育と真実

現代の危機を提言し、その中で教育の重要性を説く
真の教育と真の生き方を示唆する

徳丸由紀夫

人類の危機

現在、人類と地球は危機的状況にあると思われる。一つは異常気象に代表されるような物理科学的な面であり、もう一つは戦争にみられる人類の問題である。ここでは人類のこれらの危機を乗り切るためには、まずいったい何こそが必要なのかを、私自身の思う限りにおいて述べてみたい。

我々の任務

これらを解決するのは容易ではないと思う。PRSはこの物理的な危機と人間の心の危機をするどく人類にうったえていると思われる。そこで私は、特に人間がどういう人間になる必要があるのか、そしてまた教育はどういう任務をもつのかといった点から述べてみたい。私たちのまわりには子どもたちがたくさんいる。この子どもたちは明日の日本、世界を担っていく子どもたちである。ならば、我々はこの子どもたちに何を教え、何を伝えるこによってこの人類の危機を乗りきってゆけるだけの力を与えなければよいのか。

大きな過ち

我々は、大きなまちがい(戦争)を何度もくり返してきた。しかし、人間はこれだって自分の生命が大切であることを知っているし、また人を殺したくとも思ってはいない。私は人間の心はさまざまな矛盾を含みながらも美しいものだと思っている。赤ん坊や子どものころが美しいという人がいるが、もちろん私も同感である。

しかし、あの自分中心の生き方以上に美しいのは、さまざまな困難を乗りこえ、豊かな人間とのふれあいの中で、人間としてのやさしさ、豊かさを身につけた人であると思う。

しかし、なぜ戦争は起こるのか。みんなが戦争をいやがっていたのになぜ第2次大戦は起こったのか。そしてあのときの過ちをきちんと反省していなければ、また戦争の危険性はあるのだ。

戦争の原因

ここではまず、あの罪なき三

百万人の日本人の生命を奪った戦争の原因をこぐろう。日本はなぜ戦争をしたのか？「戦争好きの国民だから」――ちがう。「天皇の命令だから」――ちがう。「日本を誇りたかったから」――ちがう！

原因を述べよう。一九三〇年代の日本は世界恐慌のあおりを食って、国内の産業は低迷し、国民の購買力も落ちていたから、産業を復活させるためにはどうしても物を売らねばならなかった。しかし、国内は産業不振で失業者が増大、そのため購買力もなかった。

しかし、外国も不景気でさっぱり買ってくれない。そうなれば軍部に買わせるしかなかった。――外国の侵略にそれしかなかった。侵略し、外国の産業の息の根をとめ、日本の資本家・権力の支配をひろめ、これを隠すために、「アジアの平和を守る」「天皇の御命令」「平和のための戦争」などと飾りたて、教育面では軍人養成、国家のための人間づくりが目的とされたのだ。その結果日本はメチャメチャにされ、三百万の日本人が死んだ――戦争を起こした人は死なず、今も政治を動かしている――。

今の日本は？　教育は？

戦争を起こしたのは善良なる国民ひとりひとりの責任ではない。そして今、まだ日本の政治も経済も、戦前と体質はほとんど変わりない。これは戦争犯罪人がまだ政治を動かしている事実が、ロッキード問題で明らかになったとおりである。軍隊も世界7位の現模の自衛隊をもち、人殺し訓練をさせられている。また我々は同じ過ちを繰り返す条件がとっているこの危険な状態で生きてゆかねばならないのだ。だからこそ我々は子どもたちに何を教えなければならないかを明確にする必要がある。人を大切にする心を、正しいことをあくまでも正しいと主張できる心を培わねばならない。そして同時に我々もこれを学ばねばならないと思うのだ。もちろん未熟だし、人間的にも私はダメをみるが、いろんな面も向上心はあるよ。しかし、人間は不完全なものだと思う。だからこそみんなともに生きてゆくことが必要だと思う。みんなで1人の幸わせを大切にし、ひとりはまたみんなのために生きる。その中でひとりは成長してゆくのである。人間の成長はあらゆる人々との豊かなふれあいの中で、かちとられるものであると思う。人は人の間でしか生きられない。だからこそ人間である。

教育の目的と我々

教育の目的はあくまでも未来の社会の形成者としての、また豊かな人生をおくる人間として

の子どもたちに、幸福な人生をつくりだす力を与えることであると思う。そして、子どもたちを感動させるものが真実や事実であることを知るとき、教育はここから出発しなければならないことを痛感する。人間の内面でも、戦争にみられるような社会機構のうみだすものにしても、それが人間本来のめざす姿に反するならば、徹底的にその原因を追求し、もう二度と子どもたちを戦場へ送りだすような過ちをくり返さぬようにしなければならないと思うのだ。

私たちがあらゆる文化科学を学ぶのは、これまでの人類の遺産を教訓として学び、自ら連帯の中で幸せをかちとってゆけるだけの基りを身につけることだと思う。人間を愛し、大切にする心、物事を事実からしっかりと見て、論理的に考えることのできる頭、これらを僕たち自身身につけるために、意欲的に自分の生活や仲間にアタックしてゆくことも大切だと思う。

PRSという自然にかなった生き方、不自然さのない人柄なども大切だと思う。自分の人生の幸福と社会全体の幸福は、決して一致しないものではなく、一致してこそ両者が得られるものであり、この二つをもとめる若者がいる限り、日本の世界の未来は明るいと私は確信している。

青年の未来に幸あれ！

※　※　※

質疑応答

質　人間が生まれ変わる場合、実体（意識）が新生児の肉体に移行するのは平均三秒とのことですが、距離に関係なく三秒だとすればこの速度は三次元時空を超えたものとなり、一般の概念から飛躍しすぎています。これについてはどうですか。

答　生まれ変わる場合の実体移行の速度は、意識による旅行の速度と同じで、これは想念波が空間を進行する速度と同じです。たとえば東京のAが大阪のBの姿を思い浮かべた瞬間にAの想念はBの所へ到達しています。したがってテレパシーの交信には時間は関係ありません。

テレパシーが瞬時にして行なわれることは実験によって証明されていますから、これからみれば死者の意識が瞬時にして新生児の肉体へ移行するのも不思議ではありません。しかし想念がどうしてそんな速度で進行するかは現段階ではナゾです。

（GAIEニュースレター52号より）

問　偶像礼拝についてどう思いますか。

答　私は偶像礼拝を一切やりません。しかし物質で作った神棚や像などを礼拝してセンスマインドが静まるならば、それはそれでよいことであり、非難するごとはできません。人間には段階があるので、他人が行なっていることをただちに否定するわけにはゆかないのです。ただし私の場合は、偶像を礼拝するよりも、野辺に咲く一輪の花を見て、その中にひそむ創造主の偉大なパワーと英知を感知し、これを礼拝するように心がけています。といって、手を合わせておがむわけではありません。

（編者に宛られた久保田氏の書簡より）

日本人は土星人の子孫である!?

私(久保田氏)が"日本人は土星人の子孫である"ということを聞いたのは、ニュージーランドのGAPのリーダーをやっていたヘープ・ヒイテラという人がアダムスキーの講演を聞きに行ったとき、アダムスキーがそれを洩らしたことです。私は彼がウソを言ったとは思えません。

日本人が土星人の子孫であり、かつまた、特殊なカルマを持つ民族であるといいます。これはアメリカへ行ったときもアリス・ポマロイあたりが確か言ってました。

ただし、日本人は土星人の直系じゃあありません。日本人はミュー大陸の後裔です。ミュー大陸はかつて栄えた偉大な大陸でした。この種族はミュー大陸が沈没するいよいよの大本が土星人なので前にばらばらに分散しでいました。大体が東洋系です。ですから日本に流れついたのが日本人の祖先であり、アメリカに流れたのがアメリカインディアンです。南米インディアンとか、中米インディアンとか、同じようなタイプの民族がいるのもそのためです。あんなところに日本人とそっくりな民族が昔からいたというのは不思議なことです。

日本人はミュー大陸とされていますが、これはそれらすべての民族が、同じミュー大陸の後裔であるためです。そのミュー大陸のいよいよの大本が土星人なので、アダムスキーの体験記に出てくる"ラミュー"という土星人がいますが、これは、ラ・ミューというのはミュー大陸の指導者という意味で、大昔、その指導的立場にあった人の生まれ変わりが土星人ラミューなのだそうです。

―新潟GAP会にて―

× × ×

日本人はミュー大陸系の黄色人種です。その源泉は太古に土星から来た人々です。精神的に高度な発達をとげた民族でしたが、長い年月を通じて鋭敏な感受性を失ない、特殊なカルマを持ちながらもそれに気づかなくなり、仮空の神々を創造するようになりました。これは誤った信仰です。

―GAPニュースレター52号―

「空飛ぶ円盤とアダムスキ」より

生星旅行記（2）

ジョージ・アダムスキー

地球を除く各惑星は宇宙船を所有していますので、居移に適している新しい太陽系へその住民を移動させることになるでしょう。この新しい太陽系にはすでに各惑星から連れて行かれた百万の人が住んでおり、そのなかには地球人もいます。太陽系崩壊の場合は、地球人はみずから宇宙船を建造しない限り難に遭偶することになります。もし他の惑星群の住民に時間的な余裕があって、しかも地球人を救出するための余分な宇宙船があるならば救ってくれるでしょうが、それが可能かどうかは疑問です。というわけは他の惑星群は各自の住民をまず輸送しなければならず、しかもこの全太陽系中の人口は総計一四四〇億に達するからです。地球の三〇億はこのなかに含まれています。このことは財産の輸送までも含んではいません。ですから財産までも運ぶとなれば大仕事です。この時期がいつになるかはだれにもわかりませんが、いつか来るでしょう。彼らは地球人が宇宙船を建造することの重要性を強調しています。そしてそうするように現在地球人を援助しているのです。

地球人は責任感を失いつつあること、そしていつか目覚めなければみずからを絶滅させることになる

ことが指摘されました。現在の原子エネルギーの爆発は間違った方向へ進んでいますので、実験を中止しないならばその結果はただ文明を失なうだけでしょう。かつてきわめて平穏に存在していた宇宙空間の諸状態を放射能はひどく妨害しています。それは海洋を惑乱する暴風にたとえられます。これは他の惑星群にも影響を与え、太陽系全体に妨害を加えて崩壊を早めることになるのです。また宇宙の各種の力が悪用されていて、宇宙空間の平穏さに反して作用しています。最近の核実験がさらに続けられるならば、竜巻、地震、異常気象などが地球に災難をもたらすでしょう。これらの一連の実験はあらゆる自然の法則を不均衡にしています。宇宙人たちの言によりますと、それは全く好ましからざる状態であるということです。つまり地球人はみずからの手で地獄をつくり出しているわけです。別な楽しい状態をつくり出すこともできるのに―。

この太陽系の或る惑星群もかつてやはり同じ原子力を発見した当時、現在の地球と同様の状態になったことがあるそうです。しかし彼らは自滅するかもしれないことにすぐ気づいて、破壊のかわりに人類の福祉の方向へ転じた結果、この工ネルギーを用いて事実上の天国を築き上げたということです。地球でも同じことがやれるでしょうに―。

三十日の朝三時間と夕方の三時間は、宇宙計画について われわれを啓発することに費やされましたが、それについてはいずれお話することが許されると思います。というのはこの会合のあいだに火星から来た代表と私の二人の頭部に、ある器具が取り付けられました。私たち二人だけはその場で話される事柄のすべてを記憶することができないことを一同は知っていましたので、こんな装置によって私たちの脳細胞に知識を植えつけたのです。洩らしてもよい時が来れば私たち二人は聞いた事柄を思い出すことができるでしょう。そのとき印象は活性化され、聞いたときと同じように新鮮によみがえるわけです。言い換えれば私は今テープレコーダーなのであって無期限に頭の中へ詰められているわけです。その機械はまるで多くの針が私の脳の各細胞へ突き刺さるような奇妙な感じを与えました。その機械の使用や急速な宇宙旅行は、私の肉体がそれに慣れていなかったために、私のバランスを失わせてしまいましたので、なるべく正常な気分を保つためにある処置を受けました。この処置というのは一つの振動機械か

ら成っていて、それが私の肉体内のエネルギーばかりでなく細胞のバランスを保つのです。こちらの地球にいる宇宙人はそんな機械を持たず、また私を治療できる人もいませんので私はそれを自分でやらねばなりませんが、楽なことではありません。こんな宇宙旅行の後にからだの調子を地球の状態に合わせることは想像以上に困難です。私は他の人もこのような旅行をしないほうがよいと思いますし、移住するために別な惑星へこの肉体を運んでもらおうとは全然思いません。むしろ霊魂のままで行って生まれかわり、新しい環境で生長するほうがはるかに楽です。

彼ら宇宙人が浴しているのと同じ創造主の栄光にこの地球上で浴そうとするのなら、われわれのすべてが遂行しなければならない一つの計画が私に与えられています。それにはまずわれわれを絶滅という言葉でおびやかしている危険を取り除く必要があります。近いうちにこの計画の準備ができると思います。

私はまた米政府高官へメッセージを渡すように頼まれましたので、そのためにワシントン市へ旅行に出かけました。率直に申しますと私たちすべてにはこれから多くの仕事があります。そのすべてを片付けるのに必要な援助が得られることを願ってやみません。

さて、この土星の会議の件を知った協力者は、各自がテレパシーで感受した印象の内容が正しいかどうかがわかるはずです。会議全体の内容が私の声をも含めて地球へ放送されたのですが、特に二十九日はそれが強力に行なわれました。テレパシーの感受力がかなりのものであったにしても、あなたは自分の能力をきびしく判定しなければなりません。一つ私が言えることは、メッセージのいくらかを正確に受信した人は――実際そのような人がいたのです――受信の能力を持っていることで祝福されるだけでなく、その持って生まれた力のためにも祝福されたということです。そして未来において想念伝達に同じ方法を用いることができるように自分を分析することです。あのメッセージを受信した当時にあなたの精神状態がどのようであったかを考えてごらんなさい。そうすればあなたにとって大きな助けとなるでしょう。

（久保田付記。右の記事中に土星からの想念放送に関する言が述べてありますが、これはアダムスキ氏が土星へ行った際に地球へ向けてブラザーズと共にメッセ

ージを放送して、テレパシーの受信実験を行なう計画を出発前に各国GAPリーダーに連絡した件を意味します。各リーダーは一定の時刻に――地域によって時差がありますが――テレパシーによってそれを受信し、ア氏に報告しました。後日の発表によります、オランダの協力者レイ・ダクイラ女史が七〇パーセントの適中率を示して最高点、私は五〇パーセント適中という成績であったことが判明しました。メッセージの内容については省略します。）

ワシントンにいたあいだ私はGAPとは関係のない一人の男に会いましたが、彼も約一〇パーセントばかり受信していました。彼は財務局に関係のある人です。そこで結局だれでも番組に波長を合わせることができたはずで、それには或る心の状態を必要とするだけで、それだけのことだということがわかります。テレパシーで受信するためには精神的に高くある必要はありません。現在の危機から人類を救い出そうという気持ちさえあればよいのです。これはまた結局本人をも助けることになります。人間は何をやっても妨害や敵対行為がつきまとうものです。

われわれの計画に対抗しようとする一定のパタン（型）があります。私は二名の人を心に思い浮かべます。一人はかつて密接な協力者でしたが、今は協力することを拒んでいます。他の一人はかつて私を防衛するために働いた人でした。ところが彼らの両方とも疑惑のワナにかかってしまい、不信の状態に落ち入りました。私はこの証拠を持っています。彼ら二人が出す情報の内容と私にたいする非難は一致していますが、二人は互いに数千マイル離れています。東海岸にいるあいだに私は他の妨害者たちに出くわしました。このことで一つの事実がわかります。すなわち地球全体に放射されている一つの精神的勢力があって、それがある種の考え方に役立っているという事実です。その勢力は想念伝達、テレパシー、またその他の名称で呼ばれてよいでしょう。ゆえに疑惑の念に気をつけて下さい。そして早計に他人を疑わないことです。われわれのものであるはずの美を失なうよりも、忍耐強くあることによって一度バ

力にされるほうがよいのです。疑わないで互いに信じ合いなさい。われわれが〝至上なる父〟のために働くとき、それは自分自身のために働いていることになるのです。天使のような顔をして現われる人があるでしょうがその姿と動機とは異なっています。それにたいしては忍耐強くあることです。その人人のワナに落ちぬまないようにして下さい。悪魔でさえも神のように行動できるからです。すべからくヘビのように賢明に、ハトのように穏和にあるべきです。そうすればわれわれは勝利を得ずにはいられません。

（以下次号）

〈編者注〉

本文中に久保田八郎氏が、土星におけるアダムスキーの発信したメッセージの内容を50パーセントの的中率で受信したとあるが、その内容を氏に尋ねたところ次のような返答を寄せられた――。

〝「土星旅行記」中で、ア氏が地球のコウワーカー宛に発信したテレパシーのメッセージの内容は、ア氏書簡集を引っ張り出して調べてみないと、完全には思い出せませんが、主な内容は「今、自分（アダムスキー）は、どこの惑星にいるか？」というものでした。

ア氏やブラザーでは今までも地球人に向けて、メッセージではなく、良き想念波動を放射し続けていると思います。〟

山大PRSこの指とまれ

東北工業大学 宇宙哲学研究会会長
斉藤秀彦

私は、PRSのメンバーでありながら、PRSの活動に参加できない状態にあり、皆さんと共に研究し、会議に出席して話し合いたいとは思っているものの、何分暇がないのです。暇がないでは御叱りを受けますが、食事も満足に取る事ができず、家政婦さんでも雇おうかなどと戯言を考えている有様ですので、皆様の御理解を深く願する次第です。

山大PRSの活動状態は、PRSユニバーサルメッセージの内容から推測されますが、その内容の中で、時折、私の脳の単細胞では理解しえない難題も目につき、もうすこしかみくだいた文面を用いてほしいと思いますが、これの勉強不足も加わっているのも事実で、現段階では何とも言えません。ただ、これから参加しようとする人々にとっては、ユニバーサル・メッセージはすんなり頭に入って理解しえるかどうか、疑問を感じます。

さて、ここでPRS活動に参加できない反省と、大学時代の情熱を、何かの研究に傾けようと考え、我工大にも、"宇宙哲学研究会"なるものを設立する計画が進み、現在、会員は8名に及んでおります。当会は活動とはいっても、胸を張れる様な所までは行かないだろうとは思いますが、年に数回機関紙を発行する予定であり、来年の工大祭には、研究発表ができる状態まで進行させたいと張り切っております。活動内容は主に超能力（テレパシー）を研究課題とする予定で、電気通信工学科の先輩と共に、タタルなりとも、科学的な面からもつっ込んでみたいと考えております。

山大PRSの皆様とも、友好を深めたいと思います。よろしく!!
乱筆、乱文の文体ではありますが、皆さん、がんばんべェ～～と、これまで。

1977年5月20日

＜編者付記＞

上の原稿を寄せられた斉藤秀彦氏は、東北工業大学土木科に在学。土木、建築の分野の見識が広く、UFO問題に関しても深い興味と理解を示されている。

氏は、編者とは小学校以来の友誼の間柄で、編者の長年の観察からすれば、温和でかつ人情味溢れる好青年である。

今回、編者の依頼を快く受けられ、上の記事を寄せられた。同じPRSのメンバーであり、さらに新たに"宇宙哲学研究会"なるグループを創設された氏に激励の志を表し、氏と共に歩んで行かれたい！

氏の活動内容に関し詳細を知りたい方は下記へ御照会下さい。

〒982 仙台市茂山2丁目23-42 緑荘3号室

★久保田代表から

前略。たびたび御便りを頂きながら、どうも超多忙のために、御連絡できず、失礼しました。御元気の事と存じます。

先日は新潟支部総会に出席して、実に楽しい二日間をすごしました。皆さん、たいそう熱心で、心あたたまる雰囲気でした。

目下、ニューズレター第61号を準備中で、五月末には出せると思います。久方ぶりに会員の「声」欄を復活させます。したので、あなたの御手紙の、昨年十二月二十三日付の内容を掲載しますから御了解下さい。ついでにPRSの宣伝もしておきます。

今夏は三週間の予定でメキシコの古代遺跡めぐりと米西部旅行を一般公募により実施の予定で、詳細は「UFOと宇宙」第24号の21頁、ニューズレター第61号40頁に発表を出しますから、ごらん下さい。主催はユニバース出版社、旅行団長は、私です。費用は四十九万七千円、二十四か月払いでも可です。米西部ではパロマー・ガーデンズ、パロマー天文台にも行きます。ただし、米GAP本部へは寄りません。(時間的に余裕がないからです。)もし、御希望ならば、また御連絡下さい。他の方々にもすすめて下さい。GAP会員以外の方でもOKです。

今秋の総会にはウレッド・ステックリングを招聘し、講演とアダムスキー撮影UFO映画上映の会を東京の超豪華ホールで開催の予定です。これも詳細をニューズレター61号に掲載します。

というわけで、今年はかなり多忙になりそうです。

御元気でおすごし下さい。

五月七日

久保田八郎

山口緑様

PRS入会要項

次の要領に従った入会手続きをなされればどなたでも入会できます

1. 氏名
2. 年令
3. 住所
4. 電話番号
5. PRS入会の意志表明

88〜78〜4 25

PRSでんごんばん

- 本紙旧号在庫ありません。
- PRSのシンボルマークを設けたいと思います。会員の皆さんからの応募をお願いします。
- 会員の方で住所変更、電話番号変更がありましたら、その折、必ず連絡して下さい。
- 会員の方でテキスト「テレパシー」をお持ちでない方は、編者まで連絡して下さい。実ー指購入致します。

PPS例会

- 毎週水曜日、午後3時～5時
- 山形大学、学生会館集会室
- テキストとして「テレパシー」持参
- 「テレパシー」学習、研究発表、テレパシー練習、質疑応答

※集会室名は学館1階の告知板でお確かめ下さい。変更、中止の際はその都度連絡します。

編集後記

◎またまた長らくお待たせ致しました。ようやく第3号の完成です。夏休み前に出す予定がのびのびになり、皆様には大変御迷惑をおかけしました。深くお詫び申し上げます。

本号は24ページまでこぎつけ、さらに内容も充実し、記事の数も増えましたことは、大きな発展です。皆様の厚きご協力に感謝します。

◎久保田GADK代表により、GADニューズレター61号に、PRSが宣伝され、全国のGADメンバー間に伝えられましたが、そのため多数の方々からの照会が編者宛にあり、右ページの方々がPRSに新たに入会されました。このように多くの方々からのあたたかい御支援を頂き、ますます張り切らねばならない！と痛感致しております。名会員の方々の御健闘をお願いします。

◎PRS結成後、一周年を経過し、会員数も増し、その幅も拡大しましたが、多忙の折、まとまった集会もできず、満足できなかった点が多くあったと思います。会員の方々ご多忙のことは思いますが、週一度の例会に是非参加されるようおねがい致します。

◎今回は"想念観察"と題する記事を掲載いたしましたが、これこそがアダムスキー哲学の根本であり、かつ実践的方法です。これはやる意志さえあれば誰にでもできます。しかし長年のさばってきたエゴを消し去ろうとするのですから最初は非常に困難かもしれません。しかし大決意によって忍耐強く実践すれば必ず効果が現われます。宇宙的人間になるための最良の方法です。思い切って実践しようではありませんか！

◎誤字・脱字・印刷不明瞭が多くありますが、深くおわびします。がんばりましょう。

PRSニュースレター 3
編集発行人　山口緑
印刷協力　山口祥悦・山口たい子
発行所　PRS
〒990-2311 山形県上山市小倉30 TEL 0236(67)2555
一九七七年九月一日発行 頒価 100円